



良質なストック形成へ活発な議論を 建築の二十一世紀が始まる

千尋
Chihiro

六〇年前の丙午ひつようまの年となる一九六六年。建設省（現国土交通省）住宅局は戦後の深刻な住宅不足の解消を目指し、「住宅建設計画法」という法律をつくり「住宅建設五箇年計画」がスタートした。住宅供給の量的拡大を担い、二〇〇六年に「住宅生活基本法」「住宅生活基本計画」へと発展的に引き継がれた。

国交省が住宅だけでなく、建築の分野で中長期的なビジョンの策定に向け議論を本格化させている。官民の関係者が投資計画や人材確保・育成、技術開発で一定の道筋を付けられるよう、二〇五〇年を見据え今後一〇年程度の施策で方向を

提示する。各施策に共通する視点と

して、今後拡大するストックの活用
に軸足を置き、建築単体だけでなく
立地や周囲との関係性にも配慮。国
一律ではなく地域ごとの課題に柔
軟に対応できる仕組みを検討する
考えも示すという。まずはビジョン
の総論部分を固め、四月以降に「ス
トック」や「担い手」といった各論の
施策内容を詰める方針。二〇二七年
春にビジョンがまとまる予定だ。

昨年五月、日本建築士会連合会
（士会連合会）、日本建築士事務所
協会連合会（日事連）、日本建築家
協会（JIA）、日本建設業連合会
（日建連）、日本建築学会の五団体

が「国際的で魅力ある次世代の建

築職能人材の育成に向けた提言」
を公表した。次世代の人材にとって
建築にかかわる職能が魅力的であ
り続けるため、各団体が連携し戦略
的に取り組むべき喫緊の課題に対
する提言をまとめている。更に士会
連合会、JIA、日事連の三団体が
同年十月、建築関連の法制度改善
に関する提案書を国交省に提出し
ている。

ビジョンには建築基準法や建築
士法の見直しに連動する内容も少
なくない。学協会の提言・要望には
建築士法や建築基準法の改正が必
要となる項目も多く、国交省の動

向を注視していきたい。

建築の魅力を伝える推進力に

建築の楽しみ方は多彩だ。二〇二
五年に創刊一〇〇周年を迎えた建
築専門誌『新建築』を耳で楽しむと
いうコンテンツが好評のようだ。新
建築データ（東京都千代田区）が新
建築のコンテンツをベースにしたA
Iパーソナリティーによる音声番組
「新建築 公式Podcast」を、
配信サービス大手のスポティファイ
で昨年十二月に配信を始めた。月
刊誌の内容を約一五分間に要約し
社会的な視点のほか、建築の最新

情報やトレンドも交えた「建築カル
チャー情報番組」を届けている。

ターゲットは建築界だけでなく、
デザイン、アート、ファッションに
関心を持つ高感度なカルチャー層。
建築誌の多岐にわたる最新情報を
聴きやすい構成に凝縮し、個々の建
築プロジェクトにまつわる「ストー
リー」に焦点を当て、聴覚から想像
力を刺激する。番組の進行役は、男
女二人のAIパーソナリティーが
担当。専門用語に偏らず、リスナー
と同じ目線で建築を「発見」してい
く、親しみやすい語り口が特徴だ。

主なコンテンツは、建築に込めら
れたストーリーや思想にフォーカス
する「今月の注目プロジェクト」、
直近の建築プロジェクトや建築界の
動きをニュース感覚で紹介する「月
評ダイジェスト」、建築・デザイン
関連の展覧会や書籍を厳選し案内
する「EXHIBITION &
BOOKS」など。このほか、誌面
裏話などを軽やかなテンポで伝え
る。

日本最大級の建築音声メディア
とされるのがネットラジオの「建築
系ラジオ」だ。始まったのは二〇〇

八年八月。幾つかの建築雑誌の休刊
が相次ぐ時期で、建築に関する様々
な話題を音声という形で発信する
新しい建築メディアの試みとなっ
た。建築家へのインタビューや学生
が出演するコーナー、書評など多彩
なプログラムを展開。地方都市など
で数多くの公開収録イベントも行っ
ている。

このほか、若手建築家の視点や建
築界の未来を語る「建築の未来図」
がスポティファイなどで配信されて
いる。今年一月には全国のコミュニ
ティFMで「建築のトビラ」の放送
が始まった。こうした音声メディア
が、建築の魅力を広く一般に伝える
推進力となることを期待したい。

変化の最初の時代にいる

二十一世紀の最初の四半世紀が
終わり、新たな時代が幕開けを迎

えた。この二五年で技術革新やグ
ローバリゼーションが急速に進展。
スマートフォンは日々の生活やビジ
ネスシーンで手放せないツールとな
り、AIも日常に深く浸透するな
ど、私たちを取り巻く環境は劇的に
変わった。

建築はその時代の社会、文化、技
術、政治的価値観を映し出す鏡で
あるといえよう。単なる機能的な構
築物ではなく、人々の生活様式や思
考様式に影響を与え、またそれらに
よって形成される存在だ。大阪・関
西万博で会場デザインプロデュー
サーを務めた建築家の藤本壮介氏
は、「標準化されたものを繰り返す
という近代から、多様なものが多様
なままさまざまな関係を結ぶとい
う時代へと大きく変化し始めてい
る」（『新建築』二〇二五年十二月）
と時代を読む。「変化の最初の時代
にわれわれはいる」ともいう。

モダニズム建築の巨匠ル・コル
ビュジエ（一八八七〜一九六五年）
は、近代建築の五原則（「ピロティ

「自由な平面」「自由な立面」「水平
連続窓」「屋上庭園」）を一九二六
年に提唱した。一九二〇年代に近代
建築の方向が定まり、建築の二十世
紀が始まった。同様に建築の二十一
世紀も二〇二〇年代に姿を現すの
だろう。

社会課題が複雑化、高度化する
なか、境界を越え、多彩で柔軟な協
働や連携から共創を生み出す。そん
な建築の造り方が始まりつつある。
建築の二十一世紀に注目したい。